



RoomOS 11.1

Cisco Room Series ユーザーガイド

Touch 10 または Room Navigator を使用するデバイス

目次

このユーザ ガイドの内容

はじめに

ベストプラクティス	4
RoomOS 11：基本的なナビゲーション	5
USB カメラとして Room Kit Mini を使用する	6
自分のログイン情報でサインインする	7

ビデオ コール

RoomOS 11：コール制御	9
音声設定	10
連絡先リストから発信する	11
発信前に連絡先を編集する	12
名前、電話番号、 またはアドレスを使用して発信する	13
着信コール	14
通話中にコールを受信する	15
通話から自分を切断する	16
通話を保留にし、保留中の通話を再開する	17
対応中の通話を転送する	18
応答不可を有効にする	19
すべての通話を自動転送する	20
通話中にキーパッドを開く	21
進行中のコールに参加者を追加する	22
会議から参加者を切断する	23
会議に参加者を追加する	24
会議中にスピーカーをピン留めする	25
会議中に挙手する	26
最近の通話の詳細を検索する	27

Cisco Proximity

Cisco Proximity の超音波信号	29
------------------------------	----

コンテンツ共有

通話中にコンテンツを共有する	31
非通話時にコンテンツを共有する	32
通話中にプレゼンテーション レイアウトを変更する	33

スケジュールされた会議

スケジュールされた会議に参加する	35
Webex 会議に参加する	36

連絡先

お気に入り、履歴、ディレクトリ	38
通話中に誰かをお気に入りに追加する	39
非通話時に誰かをお気に入りに追加する	40
お気に入りを編集する	41

カメラ制御

通話中にカメラのオンとオフを切り替える	43
通話中および非通話時にセルフビュー にアクセスして調整する	44
セルフビューを移動する	45
自動カメラモードを選択する	46
カメラを手動で制御する	47
カメラ位置プリセットを追加する	48
カメラ位置プリセットを編集する	49
遠端カメラを制御する	50

設定

デバイスの設定と規制情報	52
--------------------	----

目次の項目はすべてハイパーリンクになっています。ハイパーリンクをクリックすると、対応する記事に移動できます。

サイドバーのアイコンをクリックして、章単位で移動することもできます。

このガイドでは、オンプレミスサービスに登録されている場合の Touch 10 または Room Navigator での次の製品の使用について説明します。

Room シリーズ：

- Room Bar
- Room Kit EQ
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room Kit Plus (Codec Plus 付き)
- Room Kit Pro (Codec Pro 搭載)
- Room 55 および 55 Dual
- Room 70 および Room 70 G2
- Room Panorama および Panorama 70

注意：このユーザーガイドで説明する一部の機能は特定の市場においてオプションであり、お使いのデバイスには該当しない場合があります。



はじめに

はじめに

ベスト プラクティス

効果的なビデオ会議では、出席者の距離がどれだけ離れていても、対面式の会議を行えます。ビデオ会議であっても、会議であることには変わりありません。通常のマナーや、服装を心がけるようにしてください。

会議室内

- すべての発表の音声が拾われるように、マイクをテーブルの前方に設置してください。デバイスの正面から 2 m (6.5 フィート) 以上、テーブルの前方の端から 30 cm (1 フィート) 以上離れた平らな面が最適です。
- 指向性マイクはデバイスの反対側に向ける必要があります。
- マイクの前方には、物などを置かないようにしてください。
- マイクは、テーブルに置かれたコンピュータやプロジェクターのファンなどのノイズ源から離してください。これらのノイズ源からの雑音は、リモート参加者にとって予想以上に大きく聞こえます。
- ドキュメント カメラやホワイトボード カメラを使用する場合は、カメラと会議リーダーとの距離や、カメラと専用コントローラとの距離が縮まるように参加者を配置します。
- ホワイトボードを使用している場合は、専用のホワイトボードカメラだけでなく、メインカメラからもホワイトボードが見えた方が、リモート参加者にとってわかりやすいミーティングになります。テレビ放送では通常、この手法を用いてプレゼンターが実際に同じ部屋にいるように見せています。

- すべてのペリフェラルは、1 人の出席者が手を伸ばして、会議の最中にポイント、ディスプレイ変更、記録などの操作を行える場所に置いてください。
- できるだけ自然な会議環境を演出するために、カメラは受信モニタの上部中央に置いてください（可能な場合）。遠くにいる会議の相手とアイ コントクトを行えるよう、カメラは、会議出席者に直接向ける必要があります。ビデオデバイスのセルフビュー機能を使用して確認してください。セルフビューは、リモートの出席者に表示される映像を、自分のデバイス（発信ビデオ）に表示します。
- コンテンツを共有する場合、通常はデュオ ビデオを活用します。つまり、2 本のビデオ ストリームを使用します。1 本はプレゼンテーション用、もう 1 本はプレゼンター（またはプレゼンター グループ）用です。小型のデバイスでは、プレゼンテーションとプレゼンターのどちらを表示するかを選択しなければならないことがあります。

その他のヒント

カメラのプリセットの使用

Cisco Webex Devices では、ズームおよびカメラの向き（パンとチルト）を事前に定義できます。必要であれば、これらを使用し、発表者にズームします。後からズームアウトすることを忘れないでください。カメラトラッキング機能のあるデバイスでは、この操作は不要です。

スピーカのボリューム

音声システムは、モニタ内蔵のスピーカか Cisco Digital Natural Audio Module を使用します。

一部のデバイスでは、モニタリモートでモニタの音量を調整することで、デフォルトのボリュームレベルを設定できます。

明るさのコントロール

モニタの明るさや色などの設定を調整するには、モニタのリモート コントロールを使用してください。会議室の条件に合わせて、モニタを調整してください。シスコのモニタはオンスクリーンメニューを備えており、これらは非常に簡単に使用できます。各モニタの設定方法については、該当するユーザ ガイドと管理マニュアルを参照してください。

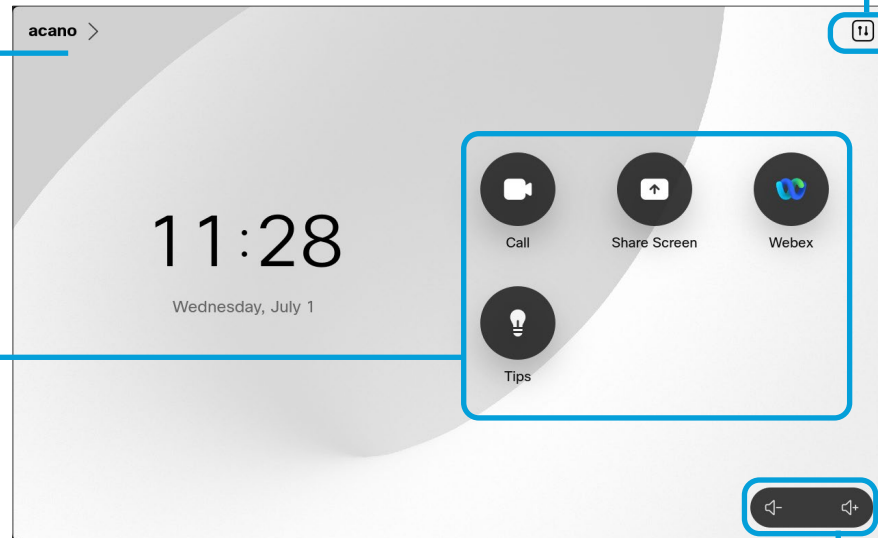
はじめに

RoomOS 11 : 基本的なナビゲーション

接続されているデバイスの名前をタップすると、その連絡先情報が表示されます。

ボタンの下のドットは、画面外にボタンがまだあることを意味します。右からスワイプして表示します。

ホーム画面の中央には、時刻と日付のほか、以前と同じように機能する [コール (Call)] や [Webex] などの使い慣れたボタンが表示されます。



タップして、新しい画面でコントロールパネルを開きます。

Room Navigatorの音量コントロールは画面にあります。

RoomOS の概要 11

Cisco Touch 10 および Room Navigator は、新しい RoomOS 11 オペレーティング システムをサポートしています。

使い慣れた機能のほとんどは以前と同じように動作しますが、一部が変更されているか、別の場所からアクセスできます。使用可能な新しい機能もあります。

このガイドでは、Board および Room Series デバイスに接続されたタッチコントローラの RoomOS 11 ユーザーインターフェイスにある新機能と既存の機能に対する変更の一部を紹介します。

RoomOS 11 のユーザ エクスペリエンスの詳細については、<https://help.webex.com/n01kjh1/> を参照してください。

はじめに

USB カメラとして Room Kit Mini を使用する

Cisco Webex Room Kit Mini は、USB カメラとしても使用できます。

Room Kit Mini をシスコに登録していない場合は、他の USB カメラとして使用できます。

Room Kit Mini をシスコに登録している場合も USB カメラとして使用できますが、次の点に注意してください。

- Room Kit Mini は、ソフトウェアクライアントがカメラを使い始めたとき、およびケーブルが接続されていないときに応答不可 (DND) モードになります。
- これにより、専用のコンピュータが常時 Mini に接続されている場合でも、通常のシスコのコールに Room Kit Mini を使用することができます。

Room Kit Mini を USB カメラとして使用するには、コンピュータと Room Kit Mini の USB-C ソケットを USB ケーブルで接続します。

この構成では、Room Kit Mini のマイクとスピーカーが使用され、優れたサウンド体験が実現されます。

この構成を拡張して外部モニターを含める場合は、通常の方法でコンピュータをモニターに接続します。

カメラコントロールは Room Kit Mini の Touch 10 から完全にアクセス可能です。

その他のデバイス設定も、[応答不可 (Do Not Disturb)] を除いてすべてアクセスできます。[応答不可 (Do Not Disturb)] は、シスコに登録された Room Kit Mini で無効にすることはできません。

登録時に USB カメラとして使用

サードパーティのクライアントを使用して電話をかける場合、カメラ、マイク、およびスピーカーは OS/アプリケーションのデフォルトに基づいて選択されます。これらの設定は上書きできます。

カメラは Touch 10 から制御されます。

プライバシーを維持するため、カメラがアクティブになっているときはいつでもカメラのライトインジケータが点灯します。

他のすべての機能はサードパーティのクライアントによって制御されます。

未登録時に USB カメラとして使用

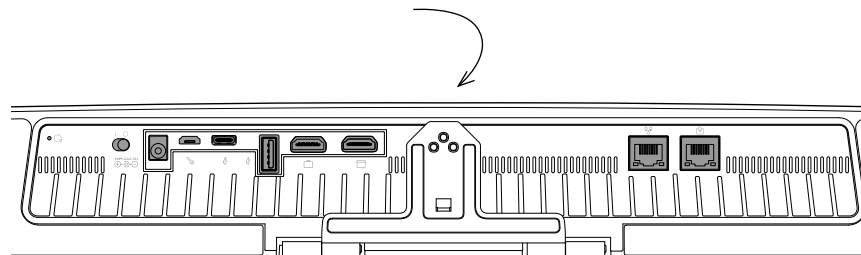
シスコのビデオデバイスを初めて起動すると、セットアップウィザードが表示されます。

このウィザードでは、シスコサービスへの登録方法 (クラウドまたはオンプレミス) を指定できます。Room Kit Mini を USB デバイスとしてのみ使用する場合は、このウィザードをスキップできます。

登録方法を示す詳細な手順が画面に表示されます。

後で Room Kit Mini をシスコに登録する場合は、[設定 (Settings)] に移動し、[デバイスの有効化 (Device Activation)] を選択します。

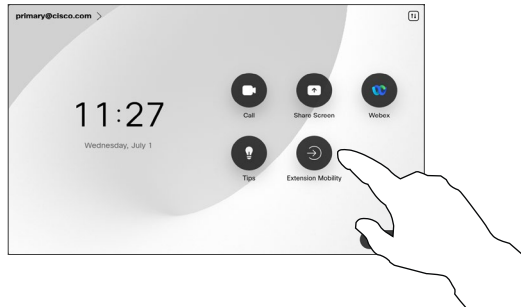
コンピュータを USB-C
ソケットに接続します



はじめに

自分のログイン情報でサインインする

1



[エクステンションモビリティ (Extension Mobility)] ボタンをタップします。

ボタンが表示されない場合は、ホーム画面のボタンを左にスワイプします。

2



ユーザー名と PIN コードを入力し、**[ログイン (Login)]** をタップします。サインインが成功したことを示す確認メッセージが表示されます。

3



ログアウトするには、**[サインアウト (Sign out)]** をタップします。ボタンが表示されない場合は、ホーム画面のボタンを左にスワイプします。

エクステンション モビリティについて

ミーティングルームや静かな部屋に設置され、CUCM (Cisco Unified Communications Manager) の下で動作するデバイスでは、自分の個人用ログイン情報を使用してデバイスにログインすることができます。

CUCM は、その特定のデバイスにすべての着信コールをルーティングします。

エクステンションモビリティからログアウトすると、[履歴 (Recents)] の一覧はデバイスからクリアされます。



ビデオ コール

RoomOS 11 : コール制御

電話をかけるには、ホーム画面の [コール (Call)] ボタンをタップします。ビデオアドレスを入力するか、[お気に入り (Favorites)]、[履歴 (Recents)]、または [ディレクトリ (Directory)] で誰かを検索します。コールが接続されるとすぐに、タッチコントローラ画面にコールコントロールが表示されます。

通話中に左上隅の下矢印をタップすると、ホーム画面が表示されます。そこから、コールを中断することなく、コントロールパネルとデバイス設定にアクセスできます。

[コール制御 (Call controls)] 画面には、自分のミュートとミュート解除、ビデオの開始と停止、会議からの退出を行うための使い慣れたボタンが表示されます。

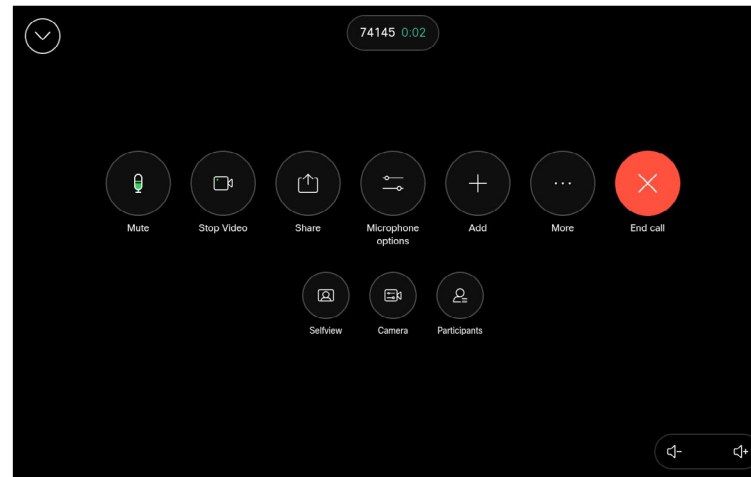
また、次の情報にもアクセスできます。

- 共有 (Share) 。共有オプションを開きます。
- マイクのオプション (Microphone options) 。 [コントロール (Control)] パネルでも使用できます。
- 詳細 (More) 。通話中オプションのリストを開きます。
- レイアウト (Layout) 。 [レイアウト (Layout)] メニューが開き、会議のスタイルに合ったレイアウトを選択できます。
- セルフビュー。セルフビューを調整および移動するためのオプションを含むカメラコントロールを開きます。
- カメラ (Camera) 。カメラを手動で調整し、ビューを保存するオプションを含むカメラモードを選択します。
- 参加者 (Participants) 。現在の通話に参加している人のリストを開きます。参加者をタップすると、使用可能なオプション (お気に入りとしてマーク (mark as Favorite) など) が表示されます。

画面を拡張する

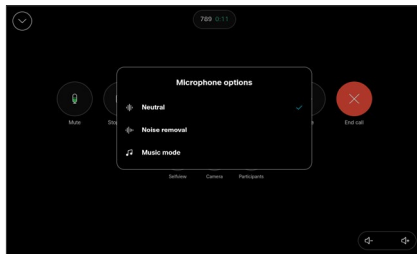
ラップトップ画面の拡張として Room Series デバイスで共有するには、HDMI または USB-C ケーブルでラップトップを接続します。数秒後に、デバイスの画面にラップトップの画面が表示されます。

通話中に接続されているラップトップの画面をプレビューするには、[共有 (Share)] をタップします。ソースを選択し、[表示 (View)] をタップします。ラップトップの画面は表示されますが、他のコール参加者には表示されません。もう一度閉じるには、[非表示 (Hide)] をタップします。



ビデオ コール 音声設定

次の音声設定は、マイクのオプションから、通話中または通話外で使用できます。これらの設定のいずれかをオンにするには、デバイスのコントロールパネルを開き、[マイク (Microphone)] をタップします。オンにするオプションをタップします。いずれも必要ない場合は、[ニュートラル (Neutral)] をタップします。



ノイズ除去

ノイズ除去を使用して、通話中に煩雑なノイズを排除することができます。ノイズ除去は、共有スペースやホームオフィスで特に役立ちます。タッチコントローラのホーム画面の右上にあるマイクアイコンをタップします。次に、[ノイズ除去 (Noise Removal)] をタップしてオンにします。オフにするには、[ニュートラル (Neutral)] をタップします。

自分の声に最適化

通話中に周囲のノイズを除去し、自分の声だけを拾って、近くで話している他の人の声がマイクに入らないようにします。

マイクのテスト

音声を録音して再生し、デバイスが適切に拾っているかチェックし、ノイズ除去設定の効果をテストします。

音楽モード

音楽モードを使用すると、音楽のダイナミックレンジを通過させることができます。これにより、音楽のニュアンスを聞くことが重要な場面でより良い体験が生み出されます。

音楽モードは、リモート ミュージック レッスンや楽器のテスト、およびすべての範囲の音楽を聞くことが重要な場合に便利です。デバイスは依然として、エコーキャンセレーションと環境背景雑音のリダクション機能を使用して、パフォーマンスを損なうことなく外部装置を使用する必要を回避しています。

音楽モードが使用されていない場合、デバイスは追加のノイズを除去し、サウンド レベルの変動を減らします。これは、会議の設定に対応し、気を散らすノイズを減らすのに役立ちます。追加のフィルタ処理は、録音した音楽をデバイスで再生するときにも機能します。

音楽モードを使用するには、まずデバイスで有効にします。コントロールパネルを開き、[デバイス設定 (Device settings)] をタップします。[音楽モード (Music mode)] までスクロールして選択します。オンまたはオフに切り替えます。

注：音楽モードとノイズ除去は同時に使用できません。

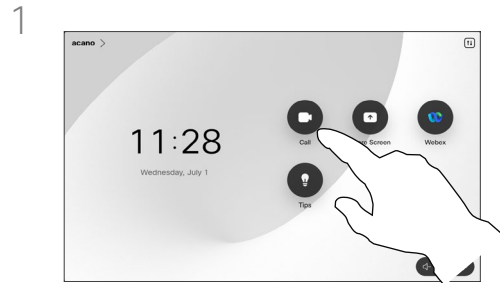
呼出音とボリューム

呼出音を変更したり、呼出音の音量を調整したりするには、ホーム画面でデバイス名をタップし、[設定 (Settings)] を選択します。[呼出音とボリューム (Ringtone and volume)] に移動します。リストから呼出音を選択し、スライダーを使用してサウンド レベルを設定します。

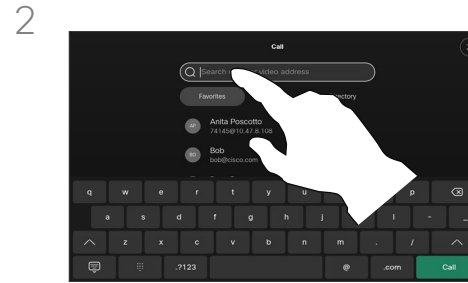
Touch 10 の音量を調整するには、ハード ボタンを使用します。ミュートボタンを使用してマイクをミュートできます。

Room Navigator では、ソフトボタンを使用して音声レベルを制御します。

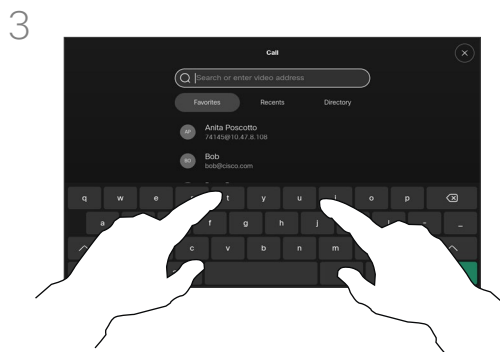
ビデオ コール 連絡先リストから発信する



[発信 (Call)] ボタンをタップします。

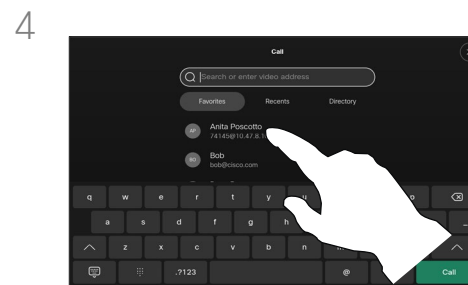


[履歴 (Recents)]、[お気に入り (Favorites)]、または [連絡先 (Contacts)] をタップし、スクロールしてエントリを見つけます。または、[検索 (Search)] フィールドをタップして、すべてのリストを一度に検索します。



名前、番号、または URL の入力を開始します。

入力するたびに一致する結果が表示されます。



発信する相手をタップし、緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。

連絡先リストについて

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

[お気に入り (Favorites)] これらの連絡先はユーザ自身が追加したものです。通常、頻繁に通話する相手や、ときどきすばやく簡単にアクセスする必要がある連絡先を登録します。お気に入りの連絡先にはアスタリスクが表示されます。

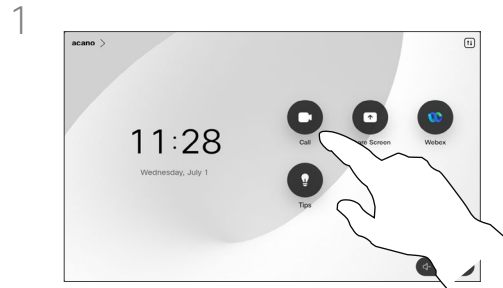
[ディレクトリ (Directory)] は通常、ビデオサポートチームによってデバイスにインストールされる社内ディレクトリです。

[履歴 (Recents)] は、発信、受信、不在着信のリストです。

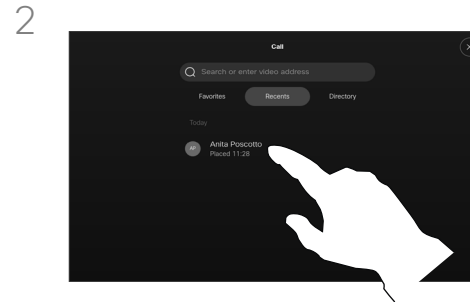
次のオプションが適用されます。

- 名前、番号、または URL を入力すると、デバイスが自動的にすべてのリストを検索します。
- [お気に入り (Favorites)] リストでは、エントリを追加したり、発信前にエントリの内容を編集したり、コールレートを変更したりできます。また、[履歴 (Recents)] からエントリを削除することもできます。

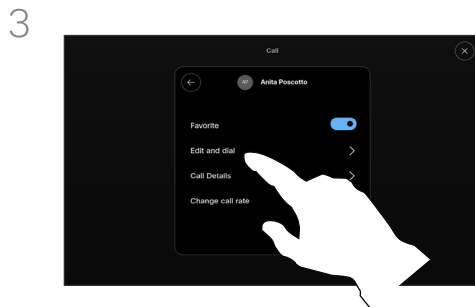
ビデオ コール 発信前に連絡先を編集する



【発信 (Call)】ボタンをタップします。



【検索 (Search)】フィールドをタップするか、リストをスクロールします。連絡先をタップして連絡先カードを開き、【詳細 (More)】 (...) をタップします。



【編集 (Edit)】をタップしてダイヤルします。



編集して、緑色の【発信 (Call)】ボタンをタップして発信します。

エンTRIESの編集について

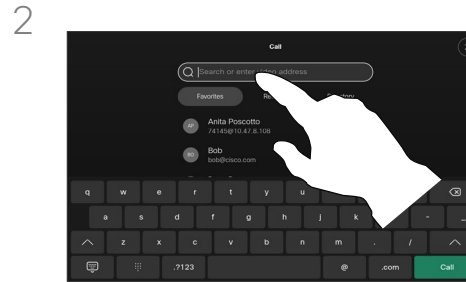
発信する前に、[連絡先 (Contact)] リストのいずれかのエンTRIESを編集する必要があるかもしれません。プレフィックス、サフィックスを追加するか、エンTRIESを変更する必要がある場合があります。

ビデオ コール

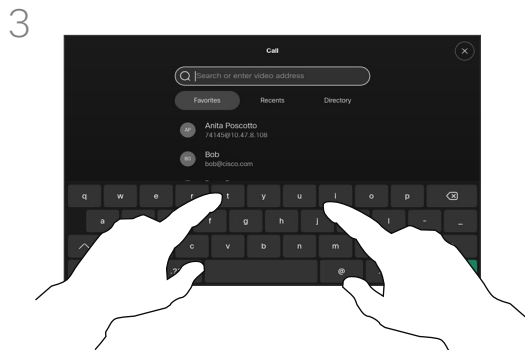
名前、電話番号、またはアドレスを使用して発信する



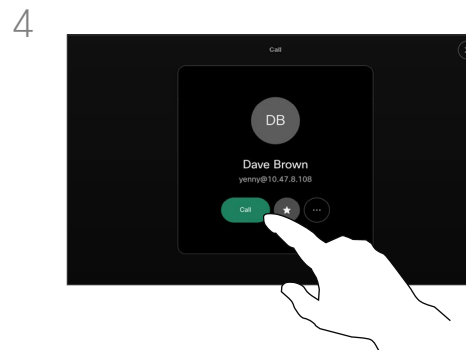
[発信 (Call)] ボタンをタップします。



[検索 (Search)] フィールドをタップします。



名前、番号、またはアドレスの入力を開始します。入力すると、一致する可能性のあるものが表示されます。正確なエントリがリストに表示されたら、タップします。表示されない場合は入力を続けます。



連絡先が見つかったら、名前をタップし、緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。

発信について

連絡先のリストに載っていない相手に発信するには、タッチパッドの仮想キーボードを使用して、名前、アドレス、または番号を入力します。

これまでの発信先と着信元は、すべて [履歴 (Recents)] リストに表示されます。そこから任意のエントリを [お気に入り (Favorites)] リストに転送できます。これについては、「連絡先」セクションで説明しています。

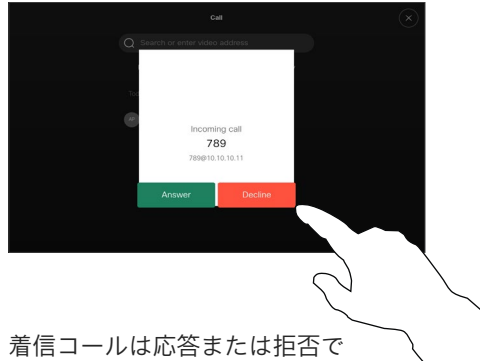
通話中、内線にアクセスしたり暗証番号を提供したりするために、数字の入力が必要になることがあります。

この操作に必要なキーパッドを呼び出すには、[タッチトーン (Touch Tones)] をタップします (このボタンは、発信するとすぐに表示されます)。

[履歴 (Recents)] をクリアできるのは Web インターフェイスからのみであることに注意してください。

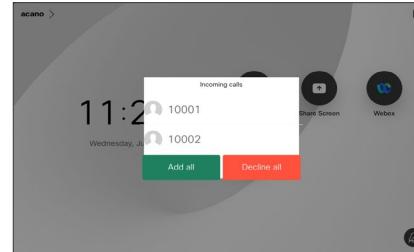
ビデオ コール 着信コール

1



着信コールは応答または拒否できます。

2



デバイスで複数の着信コールを受信できる場合は、すべてを追加するか、すべてを拒否するかを選択できます。

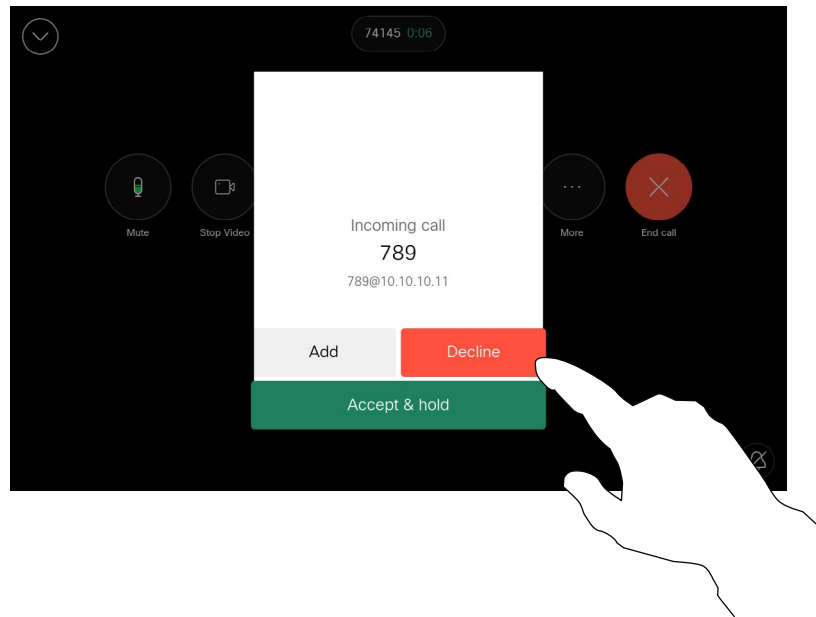
着信があった場合

- 着信があった場合は、そのコールを受け入れるか、拒否するか、無視することができます。
- コールを拒否すると、話し中であるという情報が発信者に送られます。
- コールを無視すると、発信者は相手が不在である（相手がコールに応答しなかった）と認識します。
- ビデオインフラストラクチャによっては、複数の着信通話を受信できます。

ビデオ コール 通話中にコールを受信する

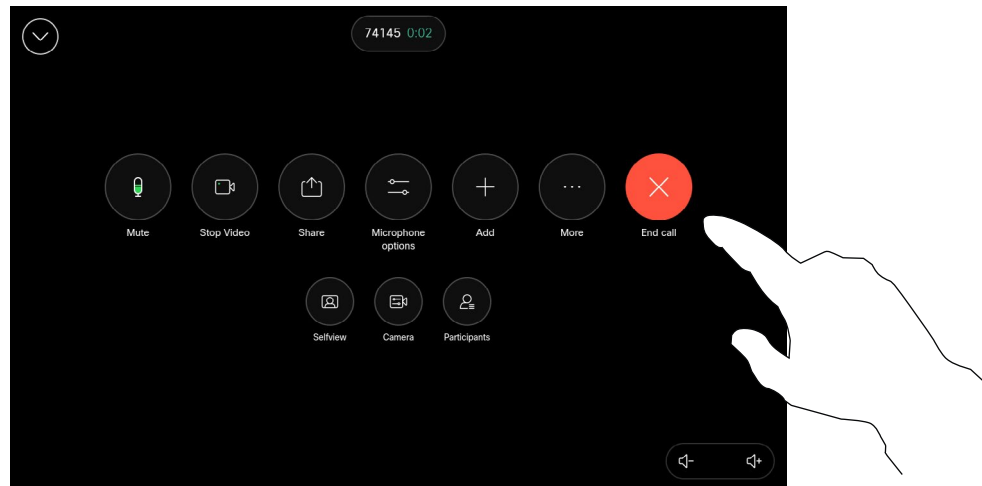
着信があった場合

すでに通話中の場合でも、デバイスで別の着信コールを受け入れる機能が有効になっていれば、着信に応答できます。



ビデオ コール

通話から自分を切断する



通話を切断するにはコール制御を開いて [通話終了 (End Call)] をタップします。

切断について

通話中に [通話終了 (End Call)] をタップすると、通話が切断されます。コールの参加者が 2 人の場合は、これでコールが終了します。

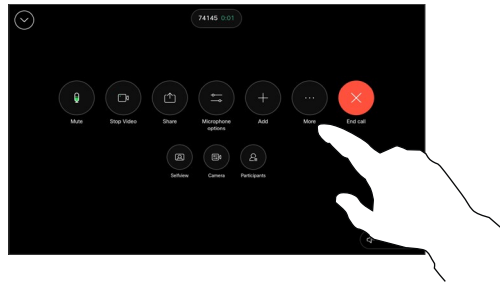
複数の参加者がいる会議コールでは、[通話終了 (End Call)] をタップすると、自分が通常の参加者である場合は自分の参加だけが終了します。

ただし、自分がそのような会議のホストである場合、[通話終了 (End Call)] をタップすると、会議のタイプによっては会議が終了します。

ビデオ コール

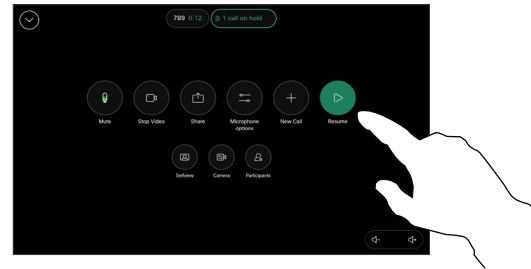
通話を保留にし、保留中の通話を再開する

1



通話中に、コール制御を開き、【詳細 (More)】ボタンをタップします。
次に、【保留 (Hold)】をタップします。

2



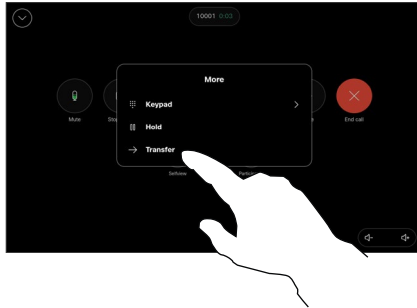
【再開 (Resume)】をタップして通話に戻ります。

保留について

通常、相手を保留にする操作は、相手を他の人に転送する場合の最初のステップとして行うものですが、他の人の話を聞く必要がある場合や、ビデオ送信の停止も兼ねたミュートの代わりとして使用することもできます。

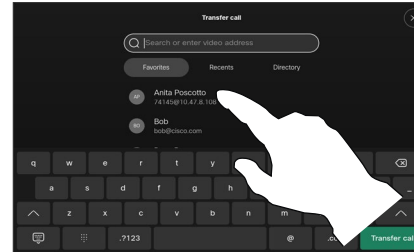
ビデオ コール 対応中の通話を転送する

1



通話中に、コール制御を開き、【詳細 (More)】ボタンをタップします。
【転送 (Transfer)】をタップします。
現在の通話が保留になります。

2

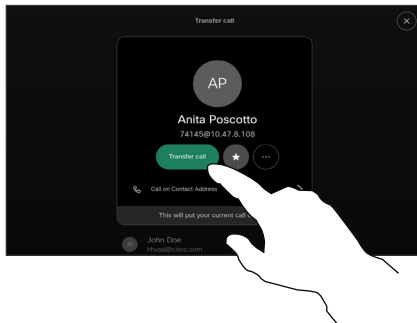


連絡先を検索して選択します。

転送について

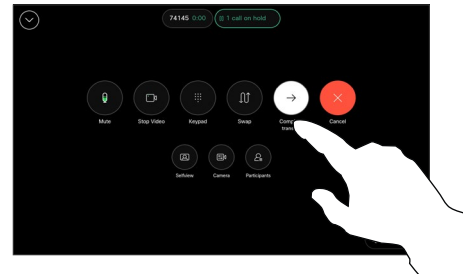
対応中の通話を別のの人に転送することができます。転送時には常に相談が可能です。つまり、実際に転送する前に転送先の人と話することができます。

3



緑色の【通話を転送 (Transfer call)】ボタンをタップします。発信先の相手と話して、転送してよいかどうかを確認します。転送される側は、保留のままになっています。

4



【転送完了 (Complete Transfer)】をタップします。

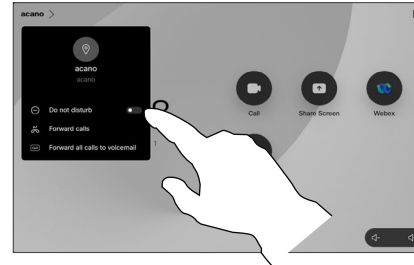
ビデオ コール 応答不可を有効にする

1



タッチコントローラのホーム画面の左上隅にあるデバイス名をタップします。

2



[通知不可 (Do not disturb)] をオンにします。非アクティブ化するには、オフに切り替えます。

応答不可について

着信コールに応答しないようにデバイスを設定することができます。ただし、こちらからは必要時にいつでも発信できます。

この機能には、ビデオサポートチームによってタイムアウトが設定されている場合があります。タイムアウト後は、デバイスが通常どおり着信コールに応答ようになります。デフォルトのタイムアウト設定は 60 分です。

ビデオサポートチームによって、表示されるメニューやオプションへのアクセスが無効にされている場合があります。

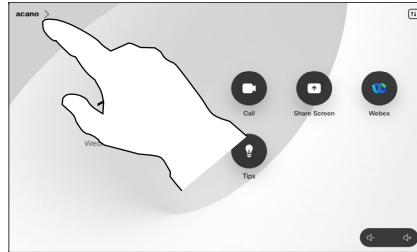
USB カメラとしての Room Kit Mini の使用Room Kit Mini は、登録済みでも PC やサードパーティのビデオクライアントで USB カメラとして使用できます。コールの重複による競合を避けるために、デバイスは自動的に応答不可モードになります。この状況で応答不可モードをオフにすることはできません。

Room Kit Mini を未登録デバイスとして使用する場合は、コールの重複が発生しないため、上記は適用されません。

ビデオ コール

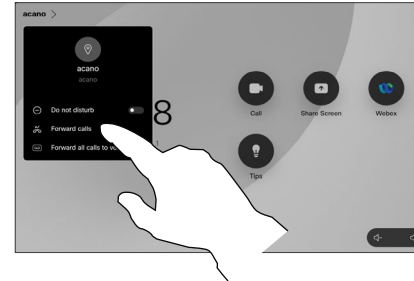
すべての通話を自動転送する

1



タッチコントローラのホーム画面の左上隅にあるデバイス名をタップします。

2



[通話の転送... (Forward calls...)] をタップします。連絡先を選択し、[転送 (Forward)] をタップします。通話の転送を停止するには、同じメニューを開き、[転送の停止 (Stop forwarding)] を選択します。

電話の転送について

ビデオサポートチームによって、すべての着信コールを転送するオプションが有効にされている場合があります。ボイスメールに転送するか、受信者を指定して転送するかを選択できます。

[すべてのコールを転送 (Forward all calls)] をタップすると、通常の [発信 (Call)] メニューが表示され、受信者を指定できます。

ビデオサポートチームによって、表示されるメニューやオプションへのアクセスが無効にされている場合があります。

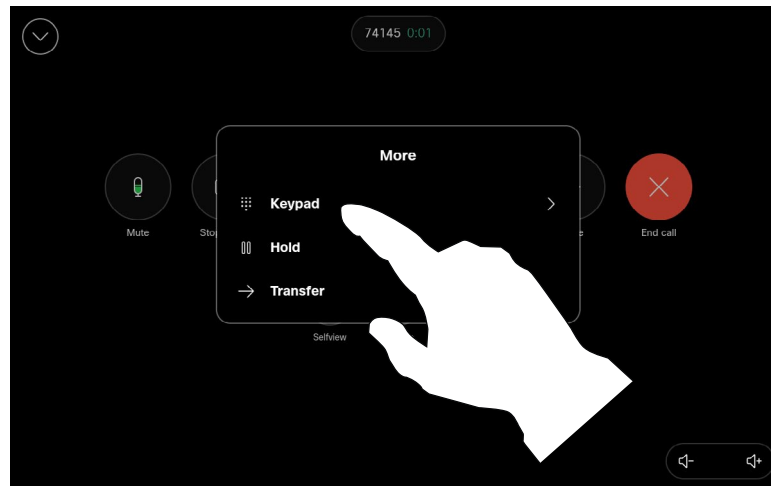
ビデオ コール

通話中にキーパッドを開く

通話中にキーパッドを使用する

通話中、内線にかけるか、何か（暗証番号など）を入力するためにダイヤル操作が要求されることがあります。

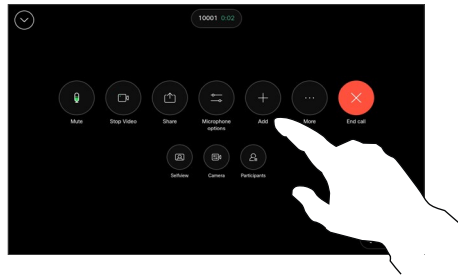
数字を入力するには、タッチコントローラのキーパッドを開きます。



通話中に、通話コントロールを開き、[詳細 (More)] ボタンをタップします。その後、[キーパッド (Keypad)] をタップします。

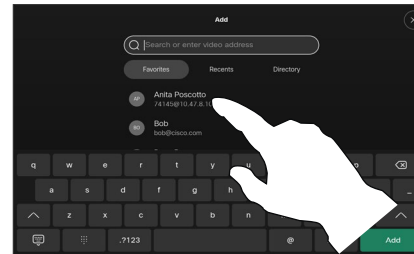
ビデオ コール 進行中のコールに参加者を追加する

1



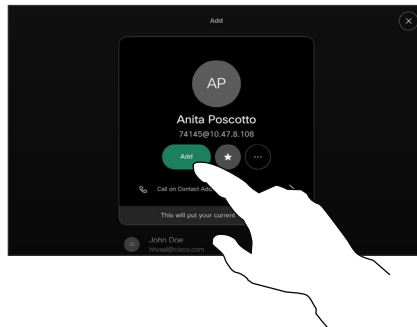
通話中にコール制御を開き、[追加 (Add)] をタップします。

2



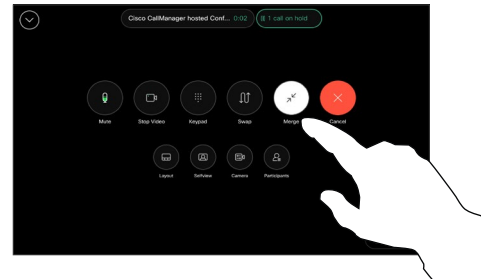
次にコールする相手を見つけます。

3



連絡先カードで [追加 (Add)] をタップします。

4



コール制御で [マージ (Merge)] をタップして、新しいコールを既存のコールに追加します。会議ができるようになりました。

この手順は、ビデオインフラストラクチャで可能な人数まで繰り返せます。

ビデオ会議について

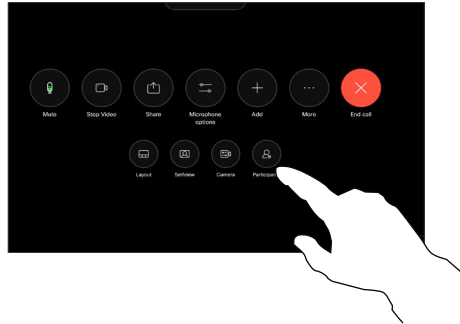
ネットワークには、複数の参加者とビデオ会議を開始する機能が装備されている場合があります。

ビデオデバイスでサポートされる参加者の最大人数は、デバイスの設定とビデオのインフラストラクチャによって異なります。これを確認するには、ビデオ サポート チームへお問い合わせください。

ビデオ会議を開始する場合は、参加者に一人ずつコールする必要があります。

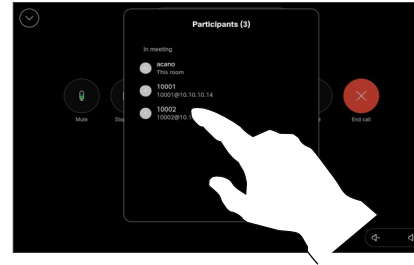
ビデオ コール 会議から参加者を切断する

1



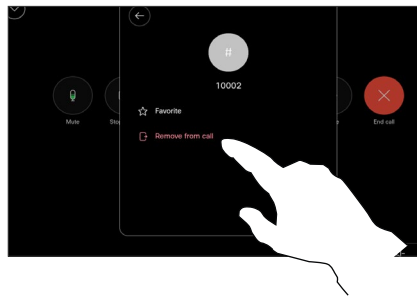
通話中に、コール制御を開き、[参加者 (Participants)] ボタンをタップします。

2



会議からドロップさせる参加者をタップします

3



[通話から削除 (Remove from call)] をタップします。

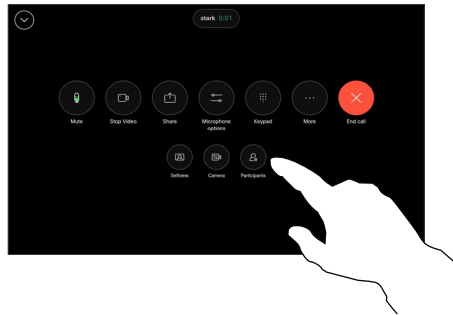
ビデオ会議について

デバイスからビデオ会議を実行する機能はオプションであり、デバイスによっては使用できない場合があります。

会議から他の参加者を切断するには、会議のホストである必要があります。

ビデオ コール 会議に参加者を追加する

1



誰かがロビーで待っている場合、通話中に通知されます。コール制御を開き、[参加者 (Participants)] ボタンをタップします。

2



[承認 (Admit)] をタップして待っている参加者を会議に参加させます。

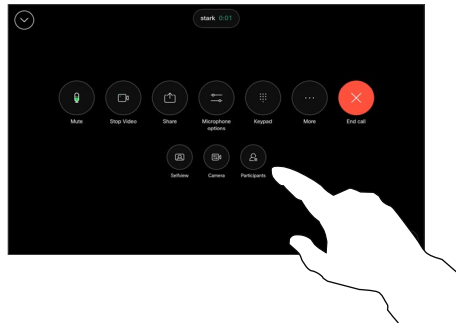
参加者の承認について

ロックされている CMS 会議では、参加者を参加者リストから会議に参加させることができます。

ビデオ コール

会議中にスピーカーをピン留めする

1



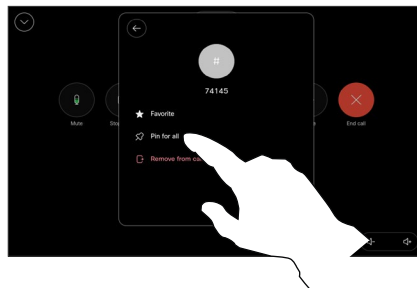
通話中に、コール制御を開き、[参加者 (Participants)] ボタンをタップします。

2



ピン留めする参加者をタップします。

3



[全員のピン留め (Pin for all)] をタップします。

スピーカーのピン留めについて

CMS 会議では、会議参加者をピン留めして、すべての会議参加者にとって重要として表示できます。このようにして、参加者または会議室は、発言中のスピーカーでなくても、全員の画面に表示されます。

スピーカーをピン留めすると、ピン留めされたことを示す通知が画面に表示されます。同様に、ピン留めを解除すると、ピン留めが解除されたことを示す通知が表示されます。

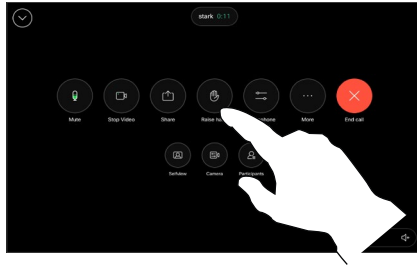
音声のみの参加者をピン留めした場合は、レイアウトに影響しません。

デフォルトでは、主催者のみが全員をピン留めできますが、会議の主催者は会議設定でこれを変更できます。

CMS 会議でのみ、会議全体のスピーカーをピン留めできます。

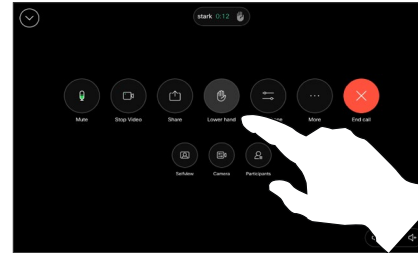
ビデオ コール 会議中に挙手する

1



会議中に、コール制御を開き、[挙手 (Raise hand)] ボタンをタップします。

2



手を下げるには、[手を下げる (Lower hand)] ボタンをタップします。これにより、名前の横にある参加者リストからもアイコンが削除されます。

挙手について

[挙手 (Raise Hand)] ボタンを使用して、会話を中断することなく、質問やコメントがあることを他の人に知らせます。

主催者と会議の他の参加者の両方に、誰かが手を挙げたという通知が画面に表示されます。最初に挙手すると、フルネームの通知が表示されます。

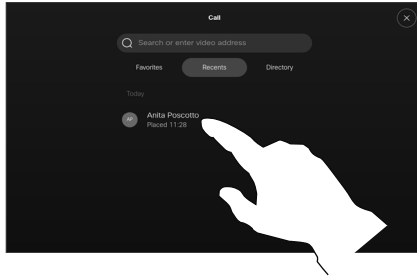
その後、[挙手 (Raise Hand)] アイコンは、何人が手を挙げたかを示します。

参加者リストを開いて、手を挙げた参加者を確認します。これらは時系列順にリストの一番上に表示されるため、誰が最初に手を挙げたかを簡単に確認できます。

挙手は、2名以上の参加者がいる CMS 会議でのみ使用できます。

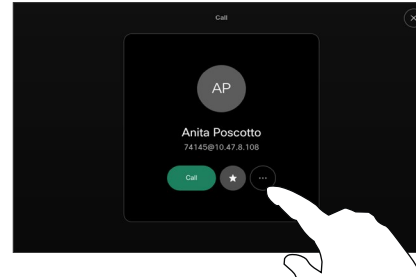
ビデオ コール 最近の通話の詳細を検索する

1



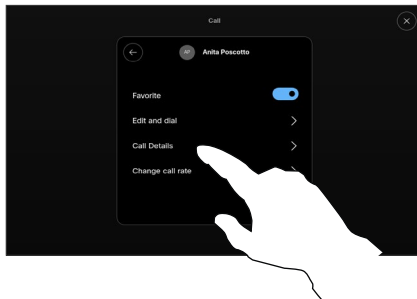
[通話 (Call)] をタップし、[履歴 (Recents)] リストでエントリを選択します。

2



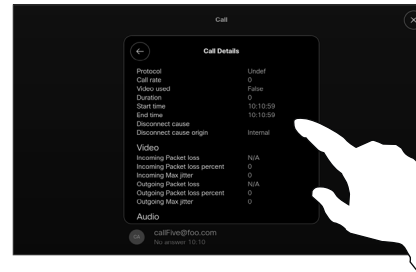
[詳細 (More)] をタップします。

3



次の画面で、[通話の詳細 (Call details)] をタップします。

4



下方向にスクロールして通話の詳細を確認します。戻る矢印をタップして、詳細画面を終了します。

通話の詳細について

最近の通話のトラブルシューティングが必要な場合は、最近の通話リストから通話の詳細を見つけることができます。



Cisco Proximity

Cisco Proximity の超音波信号

シスコのビデオデバイスは、プロキシミティ機能の一部として超音波を発生します。業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

人によっては空気中を伝達する超音波によって何らかの影響を感じる場合もありますが、75 dB 未満の音圧レベルで影響が生じることはほとんどありません。超音波の制限に関するガイドラインは国によって大きく異なります。Cisco 近接信号が出力される20 kHzあたりの周波数帯で検出される 75 dBの音圧レベルは、現在の制限における最小値となっています。

これについては、カナダでの健康ガイドラインである http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code_24-securite/index-eng.php#a2.2.2 をご参照ください。

120 dB未満の音圧レベルでは永続的または一時的な難聴はどちらも発生していないと、このガイドラインでは述べられています。

グループで使用するスピーカー搭載型のシスコのビデオデバイスでは、スピーカーから 50 cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 75 dB 未満になっています。

実際の利用ではほとんどの場合、使用者の耳に届く音圧レベルはこれら最大レベルよりはるかに低くなります。これは、スピーカーの指向性や距離による減衰に加え、一般的な部屋では高周波の高域成分が吸収されるためです。そのレベルは、会議の空間における一般的なバックグラウンドノイズ/環境雑音レベルから、いわゆる通常の会話レベルまでの範囲となります。

したがって継続的に近接信号を受けても、安全であると考えられます。その近接信号を知覚し、影響を受ける人はほとんどいません。しかし、高周波数に対して鋭敏な聴覚を持っている人も若干おり、スピーカーの目の前または近くで聞きとれるケースもあります。

犬のような動物は聴覚の周波数の範囲が非常に広いので、近接信号を聞きとれます。

しかし、近接信号の影響は音圧レベルに左右されます。また、犬が聞きとる音圧レベルの範囲も人間と比べて顕著な差があるわけではありません。20 kHzでの犬の聴覚しきい値は、0 ~ 10 dB程度になります。これは、人間の耳が最も敏感となる周波数範囲におけるしきい値と同じ値です。

近接信号が犬にもたらす影響について、Ciscoではテストや認定などを行っていません。制限レベルの存在により、近接信号がはっきりと聞き取れる状況は、犬にとって煩わしいものにならないと考えられるためです。

オフィスや会議室での、通常背景雑音や通常の会話と同等のレベルの超音波は、犬に影響を与えます。この機能を持つ当社の製品において、動物が近接信号によって悩まされているという報告は何年間もありません。

ただし、超音波を利用して犬を撃退する機器が実際に存在しているので、超音波の犬に対して影響が及ぶのではないかと考えるのもっともなことです。通常このような機器は、犬に対して不快な超音波を出すものであり、悪影響を及ぼすものではありません。シスコは犬撃退用途の機器の設計については専門外です。しかし、その手の機器の仕様分析では、概して音圧レベルが 100 dB以上であることがわかっています。

シスコのビデオコーデックをサードパーティ製スピーカーデバイスと組み合わせて使用するソリューションの場合、シスコ側で超音波の音圧レベルを制御することはできません。所定のスピーカー出力音圧レベルと周波数特性では、ほとんどの場合75 dBの制限を超えない音圧に収まります。しかし、過剰な信号の外部増幅を行う、またはスピーカーシステムが高周波を強調するものであった場合、この制限を超えた音圧が出力される可能性があります。

Cisco Proximity について

Cisco Proximity 機能を使用すると、コンピュータからシスコのデバイスにワイヤレスでコンテンツを共有できます。自分のスマートフォン、タブレット、PC、または MAC を使用して、ビデオデバイスのコールを制御することもできます。

次のことを確認します。

App Store または Google Play から、Cisco Intelligent Proximity アプリケーション（無料）をダウンロードする必要があります。

Windows または OS X を使用している場合は、<https://proximity.cisco.com/> [英語] にアクセスしてください。

ビデオサポートチームは、機能を有効にしていない、一部の利用できる機能を有効にしている、またはすべての利用できる機能を有効にしている場合があります。

Proximity は超音波を使用してユーザーを接続します（左側の詳細を参照）。パソコン、電話、タブレットのマイクをふさがないようにしてください。

ドアが閉じている場合、会議室の外では Proximity は機能しません。ビデオエンドポイントの近くで Proximity を使用する必要があります。

プライバシーを確保するために、会議室のドアを閉じて、盗聴の可能性を防ぎます。

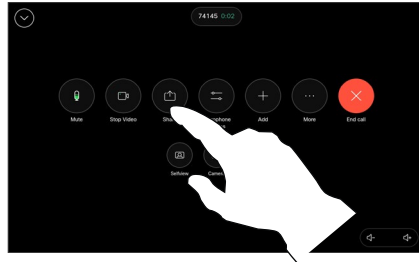


コンテンツ共有

コンテンツ共有

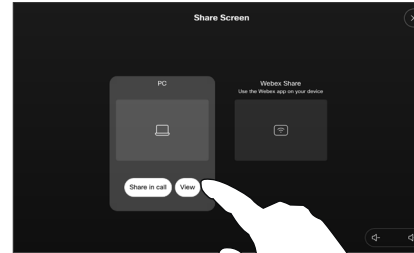
通話中にコンテンツを共有する

1



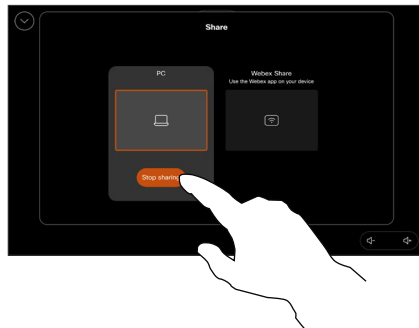
ケーブルを使用している場合、ソースを接続して、スイッチがオンになっていることを確認します。通話中に、コール制御を開き、[共有 (Share)] ボタンをタップします。

2



送信元を選択します。[表示 (View)] をタップしてプレビューを表示します。まだ誰にもコンピュータ画面を表示できません。準備ができたなら [共有 (Share)] をタップします。または、[通話で共有 (Share in call)] をタップして、すぐに共有します。

3



コンテンツの共有を停止するには、[共有を停止 (Stop sharing)] をタップします。

コンテンツ共有について

USB-C または HDMI ケーブルを使用して PC をデバイスに接続することで、シスコデバイス上のコンテンツを共有します。あるいは、Webex アプリケーション、Cisco Proximity、または Miracast® でワイヤレスに共有できます。

Miracast が有効になっている場合、クライアント無しでラップトップからシスコデバイスにワイヤレスでコンテンツを共有できます。通話中も、通話していないときもコンテンツを共有できます。通話中に共有するには、先に通話を開始します。

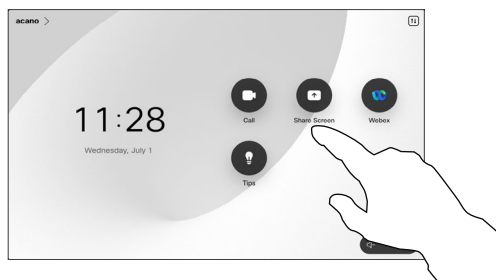
Miracast の詳細については、<https://help.webex.com/kfdwufb/> を参照してください。

ワイヤレス共有については、このガイドの「Cisco Proximity」(28 ページ) を参照してください。

注：デバイスの設定によっては、ビデオ入力コネクタの 1 つが HDCP で保護されたコンテンツを共有し、Google ChromeCast、AppleTV、HD TV デコーダなどを通じてビデオを視聴できるようになっている場合があります。この機能は通話外でのみ有効です。通話中にこの特定のビデオコネクタを介してコンテンツを共有しようとする、コンテンツ共有に割り当てられた画面の一部が黒くなり、HDCP 体制が維持されます。この動作は、コンテンツが HDCP で保護されているかどうかにかかわらず、コール中にこの入力コネクタを使用して共有しようとしたすべてのコンテンツに適用されます。

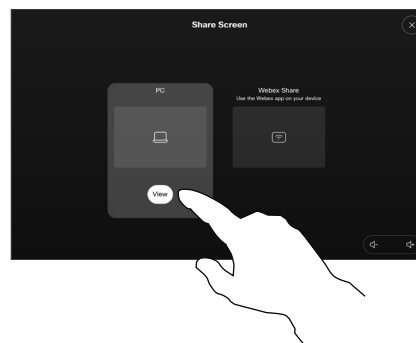
コンテンツ共有 非通話時にコンテンツを共有する

1



ソースデバイスを接続し、スイッチがオンになっていることを確認して、タッチコントローラのホーム画面で [画面の表示 (Share screen)] をタップします。

2



送信元を選択し、[表示 (View)] をタップします。セッションを終了するには、[共有を停止 (Stop Sharing)] をタップします。

ローカルコンテンツの共有

ローカルミーティングでデバイスを使用して、非通話時にコンテンツを表示して共有することもできます。

ソースデバイスでインテリジェントプロキシミティが有効になっている場合は、デバイスでプロキシミティをオンにするだけです。ソースデバイスをビデオデバイスとペアリングしたら、すぐにコンテンツを共有できます。

ヒント：マルチスクリーンデバイスでは、スクリーンと同じ数だけ独立したプレゼンテーションを表示できます。これは非通話時のみ可能です。

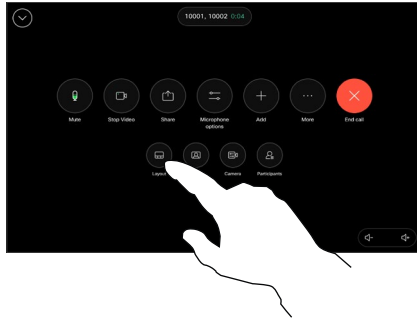
注：最初に接続するプレゼンテーションはワイヤレスで接続し、その後でケーブルを使用することをお勧めします。逆の順番で接続すると、最初の接続が切断されることがあります。

HDCP：デバイスの設定によっては、ビデオ入力コネクタの1つがHDCPで保護されたコンテンツを共有し、Google ChromeCast、AppleTV、またはHD TVデコーダを通じてビデオを視聴できるようになっている場合があります。詳細については、前のページを参照してください。

コンテンツ共有

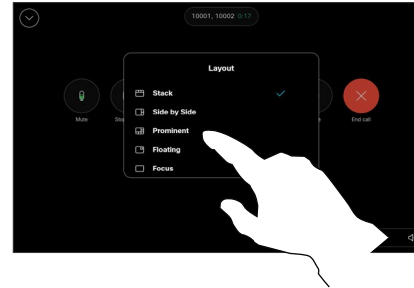
通話中にプレゼンテーション レイアウトを変更する

1



通話中に、コール制御を開き、[レイアウト (Layout)] ボタンをタップします。

2



適切なレイアウトをタップして選択します。

レイアウトについて

誰かがコンテンツを共有している間に、通話中に画面レイアウトを変更できます。使用可能な一般的なオプションは次のとおりです。

Stack : プレゼンターがコンテンツの上にスタックされます。

Floating : プレゼンターはコンテンツの上にフローティングされます。

Side by Side : プレゼンターとコンテンツが画面を共有します。

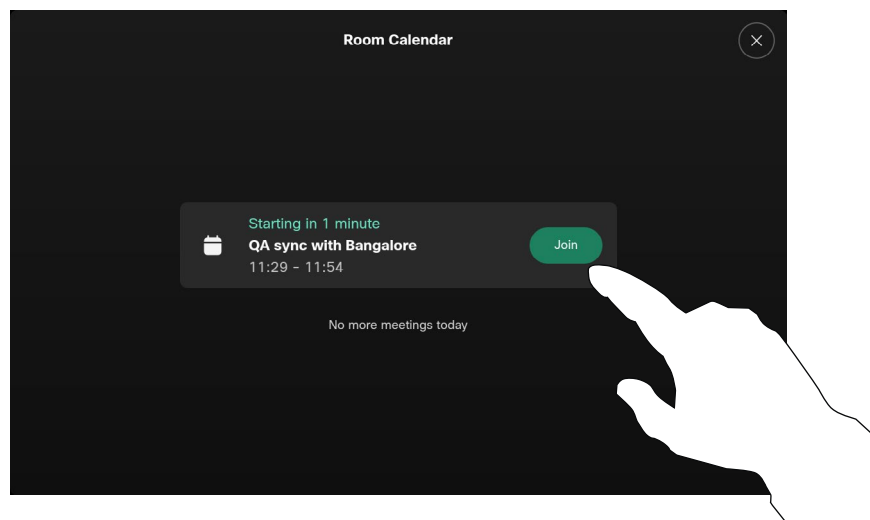
Focus : コンテンツが画面全体に表示されます。



スケジュールされた会議

スケジュールされた会議

スケジュールされた会議に参加する



ミーティングが開始間近になると、ミーティングへの参加を促すメッセージが表示されます。[参加 (Join)] をタップします。

会議への参加

ビデオデバイスは、ビデオミーティングをスケジュールできる管理システムに接続されている場合があります。左の図のように、予定されている会議が表示されます。

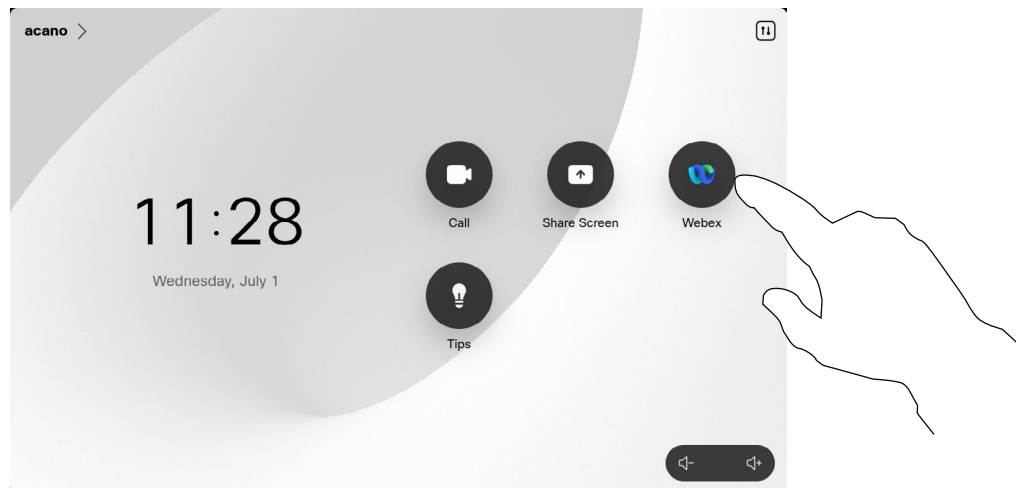
会議に参加するには [参加 (Join)] をタップします。

会議がすでに開始されている場合でも参加できます。

会議のスケジュールがデバイス画面に表示されると、デバイスがスタンバイから復帰します。

スケジュールされた会議

Webex 会議に参加する



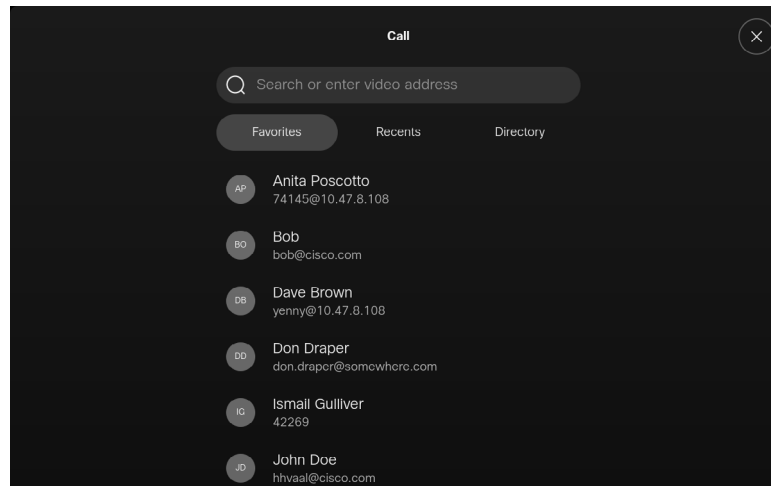
[Webex] をタップします。招待で受け取ったミーティング番号を入力し、[参加 (Join)] をタップします。

連絡先



連絡先

お気に入り、履歴、ディレクトリ



連絡先リストについて

[発信 (Call)] ボタンをタップして、連絡先リストを開きます。連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

[お気に入り (Favorites)]。これらの連絡先は自分で設定します。頻繁に通話する相手や、ときどきすばやく簡単にアクセスする必要がある連絡先を登録します。

[ディレクトリ (Directory)] は通常、ビデオサポートチームによってデバイスにインストールされる社内ディレクトリです。

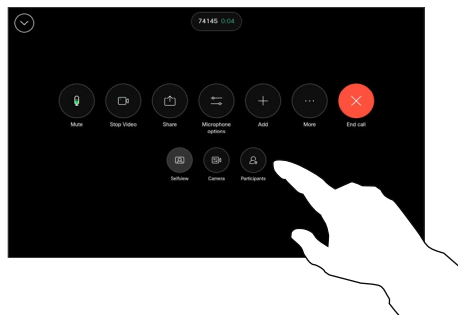
[履歴 (Recents)] は、発信、受信、不在着信のリストです。

[履歴 (Recents)] からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

連絡先

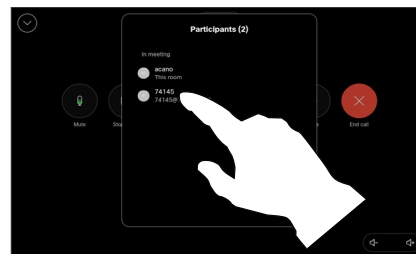
通話中に誰かをお気に入りに追加する

1



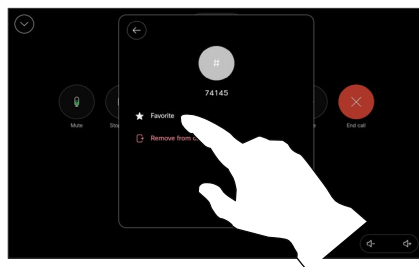
通話中に、コール制御を開き、[参加者 (Participants)] ボタンをタップします。

2



[お気に入り (Favorites)] に追加する参加者をタップします。

3



[お気に入り (Favorite)] をタップします。戻る矢印をタップし、[X] をタップしてコールコントロールに戻ります。

同じ方法で、[お気に入り (Favorites)] から人を削除します。

お気に入りについて

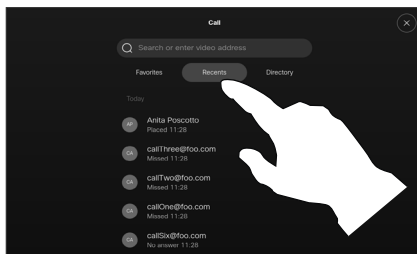
[お気に入り (Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

[お気に入り (Favorites)] は、[履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。

連絡先

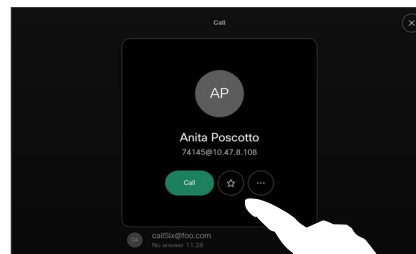
非通話時に誰かをお気に入りに追加する

1



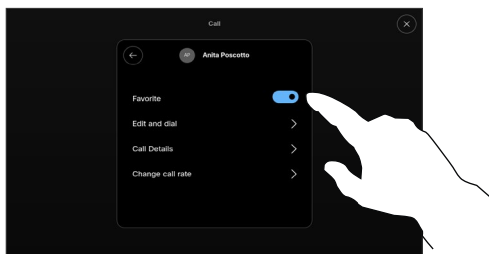
通話中でないときに、[発信 (Call)] をタップして連絡先リストを開きます。[履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] をタップして、[お気に入り (Favorites)] に追加するエントリを探します。[お気に入り (Favorites)] に追加する人をタップします。

2



連絡先カードのスターボタンをタップすると、すぐにその人をお気に入りに登録できます。または、[詳細 (More)] ボタンをタップします。

3



[詳細 (More)] をタップして連絡先カードを開いた場合は、ここで [お気に入り (Favorite)] のオンとオフを切り替えることもできます。戻る矢印をタップし、[X] をタップして終了します。

[お気に入り (Favorite)] からエントリを削除するには、この手順を繰り返します。

お気に入りについて

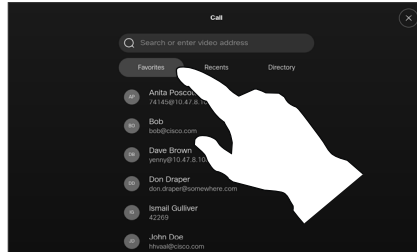
[お気に入り (Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

[お気に入り (Favorites)] は、[履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。

連絡先

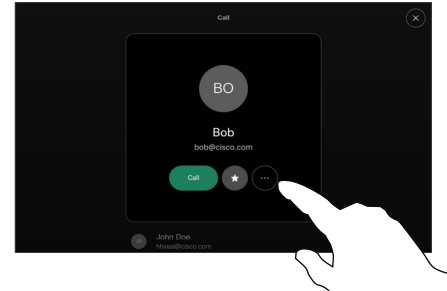
お気に入りを編集する

1



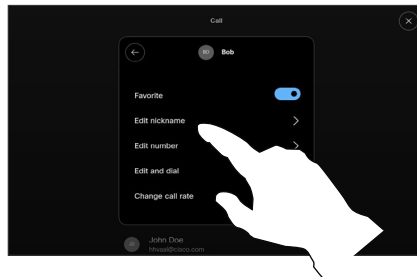
[発信 (Call)] をタップして連絡先リストを開きます。次に、[お気に入り (Favorite)] をタップします。

2



編集する人をタップし、連絡先カードで [詳細 (More)] をタップします。

3



編集する内容を選択し、変更を加えます。キーボードの [保存 (Save)] をタップします。次に、連絡先カードの戻る矢印をタップして終了します。

お気に入りについて

既存のお気に入りの連絡先はいつでも更新できます。

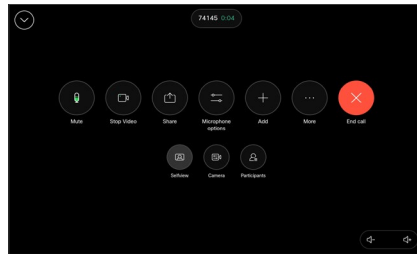


カメラ制御

カメラ制御

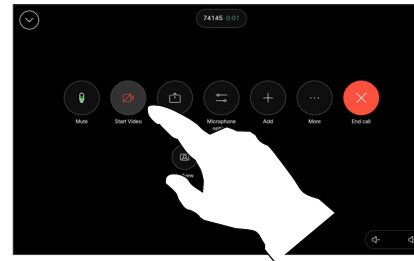
通話中にカメラのオンとオフを切り替える

1



通話中にコール制御を開きます。

2



[ビデオの停止 (Stop Video)] ボタンをタップします。[ビデオの開始 (Start Video)] をタップして、発信ビデオを再びオンにします。

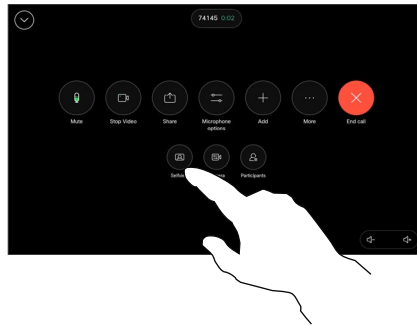
ビデオオフについて

カメラを機械的にブロックすることができないデバイスで、カメラからのビデオ送信を制御します。

カメラ制御

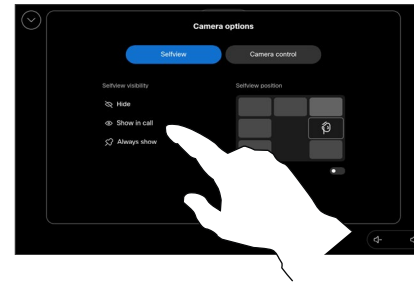
通話中および非通話時にセルフビューにアクセスして調整する

1



コール中に、コール制御を開きます。
[セルフビュー (Selfview)] をタップします。

2



可視性を設定したり、移動したり、セルフビューを全画面表示に変更したりするオプションが表示されます。カメラオプション画面の外側をタップして終了します。

セルフビューについて

セルフビューは、自分のデバイスから他の参加者に表示される映像を示します。これを使用すると、他の参加者に見せるべき適切な画面が見えていることを確認できます。

通話中と通話外の両方で、画面上でセルフビューを表示、調整、および移動できます。

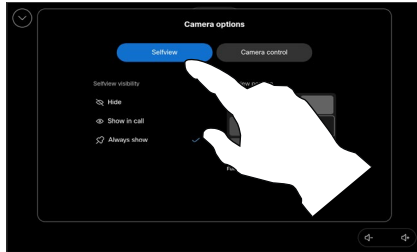
コントロールパネルを開くと、いつでもセルフビューを確認できます。カメラが開いているかオンになっている限り、デバイスの画面にセルフビューが表示されます。コントロールの [カメラ (Camera)] をタップし、[セルフビュー (Selfview)] を選択します。ここでは、次のことができます。

- 全画面表示の切り替え
- セルフビューの可視性を [非表示 (Hide)]、[通話中に表示 (Show in call)]、または [常に表示 (Always show)] に設定します。
- タッチコントロール画面に表示される定義済みの位置のいずれかをタップして、セルフビューの位置を調整します。

カメラ制御

セルフビューを移動する

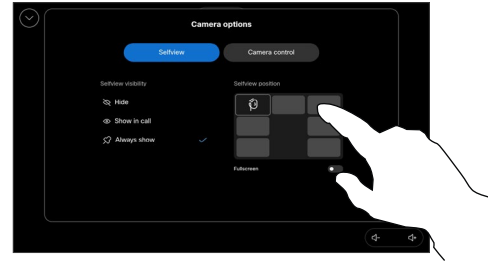
1



通話中に、コール制御を開き、[セルフビュー (Selfview)] をタップします。

または、コントロールパネルを開き、[カメラ (Camera)] をタップして、[セルフビュー (Selfview)] を選択します。

2



タッチコントローラ画面に表示される定義済みの位置のいずれかをタップします。

カメラオプション画面の外側をタップして終了します。

セルフビューについて

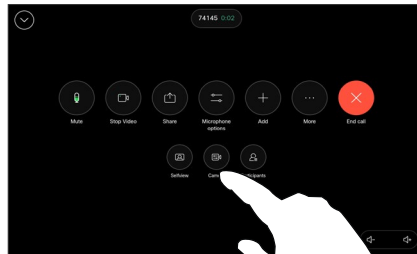
セルフビューは、自分のデバイスから他の参加者に表示される映像を示します。これを使用すると、他の参加者に見せるべき適切な画面が見えていることを確認できます。

通話中と通話外の両方で、画面上でセルフビューを表示、調整、および移動できます。

カメラ制御

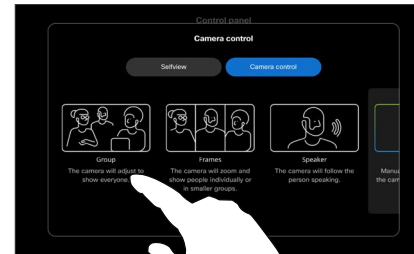
自動カメラモードを選択する

1



通話中にコール制御を開くか、いつでもコントロールパネルを開いて [カメラ (Camera)] ボタンをタップします。

2



カメラモードを選択します。カメラオプション画面の外側をタップして終了します。

カメラモードについて

自動カメラモードを選択すると、会議中にカメラを手動で制御することなく、デバイスと会議に最適なビューを取得できます。通話中かどうかにかかわらず、カメラモードを変更できます。

いくつかの異なるモードから選択できます。

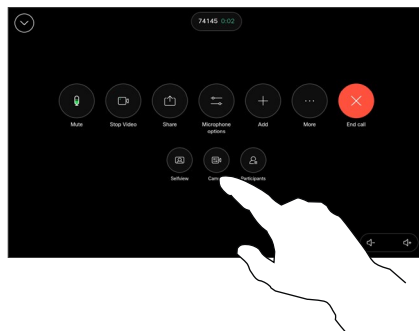
- **グループ**：全員が映るようにカメラが調整されます。
- **フレーム**：カメラはズームして、個人または少人数のグループを表示します。
- **スピーカー**：カメラは話している人を追跡します。スピーカートラッキングが機能する最大距離は 7.5 メートルです。

使用可能なモードは、デバイスと管理者が設定した設定によって異なります。

カメラ制御

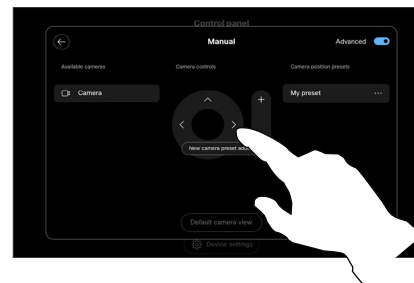
カメラを手動で制御する

1



通話中にコール制御を開くか、いつでもコントロールパネルを開いて【カメラ (Camera)】ボタンをタップします。

2



カメラ制御画面で【手動 (Manual)】を選択します。カメラ制御を使って、パン、チルト、ズームを調整します。

カメラオプション画面の外側をタップして終了します。

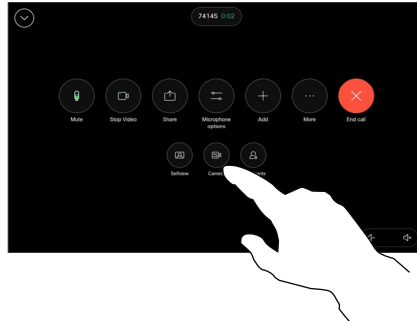
手動カメラ制御について

コール中またはコール外で、カメラのズーム、パン、およびチルトを手動で制御できます。

カメラ制御

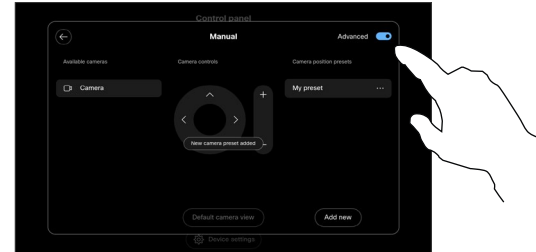
カメラ位置プリセットを追加する

1



通話中にコール制御を開くか、いつでもコントロールパネルを開いて [カメラ (Camera)] ボタンをタップします。 [手動 (Manual)] を選択します。

2



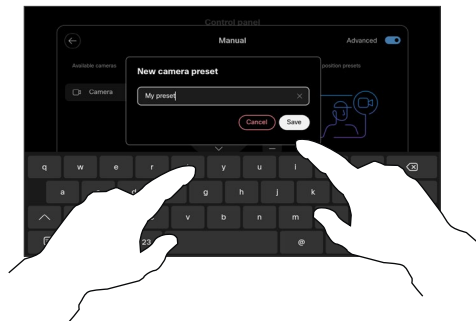
コントロール画面の右上隅にある [詳細 (Advanced)] に切り替えます。デバイスが複数のカメラを使用している場合は、左側でカメラを選択します。コントロールを使って、パン、チルト、ズームを調整します。

カメラのプリセットについて

手動のカメラ制御では、カメラのズーム、パン、およびチルトを制御できます。カメラを手動で調整する場合、ビューが気に入った場合は、保存して再度使用できます。

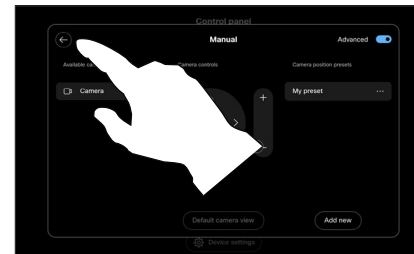
つまり、定義済みのズームとカメラの方向を使用してカスタムビューを作成できます。たとえば、複数の参加者がいる会議用にはズームアウトプリセット、もっと小さな会議にはズームインプリセットが必要になる可能性があります。プリセットはカメラ制御画面で使用でき、さまざまなタイプの会議で簡単に切り替えることができます。

3



完了したら、[新規追加 (Add new)] をタップします。プリセットに名前を付けて保存します。

4



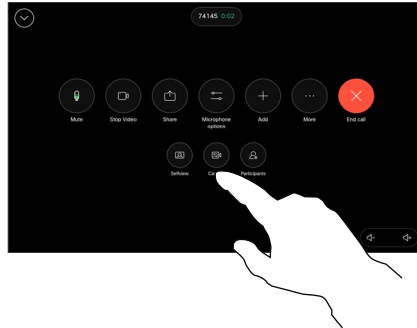
手動カメラ制御を終了するには、戻る矢印をタップします。プリセットは、他のカメラモードとともに選択用に表示されます。

カメラオプション画面以外の場所をタップして終了します。

カメラ制御

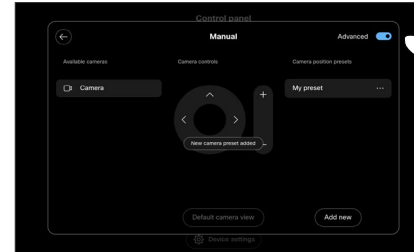
カメラ位置プリセットを編集する

1



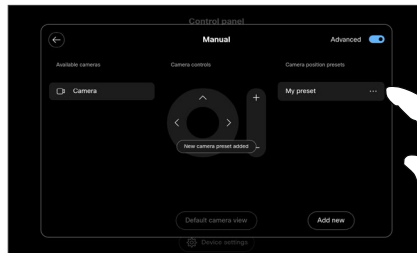
通話中にコール制御を開くか、いつでもコントロールパネルを開いて [カメラ (Camera)] ボタンをタップします。
[手動 (Manual)] を選択します。

2



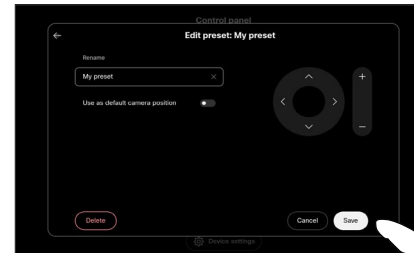
カメラコントロールの右上隅にある [詳細 (Advanced)] に切り替えます。

3



編集するプリセットの横にある [詳細 (More)] (...) ボタンをタップします。名前を変更するか、デフォルトとして設定するか、プリセットを調整または削除します。

4



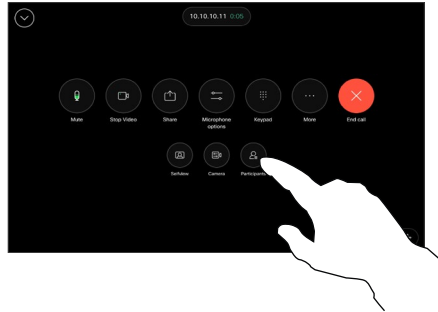
変更を [保存 (Save)] します。手動カメラ制御を終了するには、戻る矢印をタップします。編集したプリセットは、他のカメラモードとともに選択用に表示されます。

カメラオプション画面以外の場所をタップして終了します。

カメラ制御

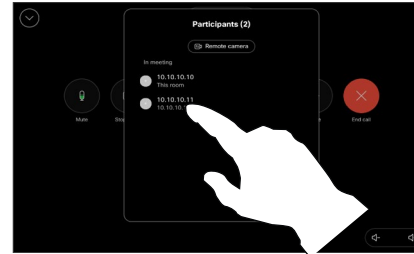
遠端カメラを制御する

1



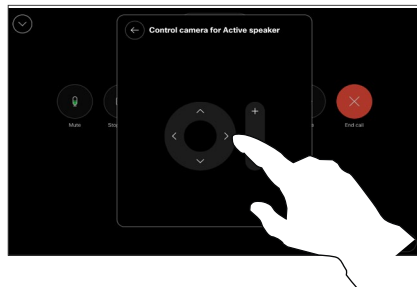
コール中に、コール制御にアクセスし、
[参加者 (Participant)] リストを開きます。

2



カメラを制御するカメラを選択します。

3



カメラ制御ボタンを使用して、リモートカメラのチルト、パン、ズームを調整します。終わったらコントロール以外の場所をタップします。

遠端カメラについて

他の 1 つ以上のデバイスにリモートで制御可能なカメラが搭載されているビデオ通話に参加している場合は、自分のタッチコントローラからそれらのカメラを制御できます。

カメラがアクティブなスピーカーをフォローしている場合、またはベストビューを使用している場合、遠端デバイスがスピーカーモードをアクティブにしている場合、カメラをリモートで制御することはできません。

カメラのプリセットにリモートでアクセスすることはできません。



設定

設定

デバイスの設定と規制情報

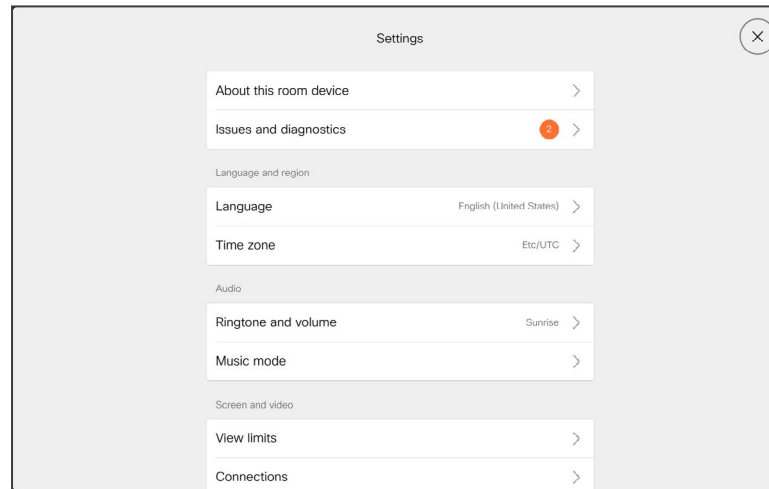
設定へのアクセス

コントロールパネルを開くには、タッチコントローラのホーム画面にあの右上隅にあるボタンをタップします。コントロールパネルでは、次の設定を確認できます。

- 音声設定
- マイクのオプション
- カメラ制御
- スタンバイ
- デバイス設定へのアクセス

[設定 (Settings)]メニューにアクセスするには、コントロールパネルを開きます。次に、[デバイス設定 (Device settings)]をタップします。メニューが開き、スクロールできます。通話中の場合は、通話の上にダイアログとしてメニューが開きます。

使用可能な設定は、管理者によって制限されている場合があります。



[設定 (Settings)]メニューでは、デバイスの情報を確認したり、いくつかの設定を変更したりできます。

- 詳細 - ビデオ アドレス情報、IP アドレスと MAC アドレス、SIP プロキシおよび現在のソフトウェアのバージョンを表示
- 問題と診断
- 着信音を選択して音量を設定する
- 音楽モードをオンまたはオフにする
- Miracast の有効化と無効化
- 通話サービスの選択
- 有線およびワイヤレス (Wi-Fi) 接続を選択
- デバイスの再起動
- [初期設定へのリセット (Factory Reset)]を実行して出荷時の初期状態に設定を戻します。これを行うと、現在の登録が失われます。工場出荷時の初期設定へのリセット操作を元に戻すことはできません

このデバイスは、認証マークとコンプライアンス情報を画面に電子的に表示します。表示されるマークは、関連する技術基準および運用規制に準拠しています。表示方法は次のとおりです。

Room Navigator の定格ラベル情報は、[設定 (Settings)]メニューで確認できます。これらを確認するには、[設定 (Settings)]> [タッチパネルについて (About the touch Panel)]> [規制 (Regulatory)]の順に選択します。



米国本社

Cisco Systems, Inc.
San Jose, CA

アジア太平洋本社

Cisco Systems (USA) Pte. Ltd.
シンガポール

ヨーロッパ本部

Cisco Systems International BV Amsterdam,
The Netherlands

シスコは世界各国に 200 を超えるオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices) をご覧ください。

Cisco および Cisco ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Cisco の商標の一覧については、www.cisco.com/go/trademarks をご覧ください。Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. 「パートナー」という言葉が使用されていても、シスコと他社の間にパートナーシップ関係が存在することを意味するものではありません。(1110R)。